

令和3年度 学校評価

選択肢 ①「そう思う」 …4点 ②「どちらかというと思う」…3点
 ③「どちらかというと思わない」…2点 ④「そう思わない」 …1点 で計算して、平均点を示してあります。

	重点目標	教育アンケート項目	子ども	保護者	職員	学校評価	関係者評価
			R3	R3	R3	R3	R3
確かな学力の育成	基礎基本の習得	子どもたちは宿題や家庭学習にすすんで取り組んでいる。	3.4	3.0	3.6		
		子どもたちはおはなしタイムで自分の考えを言うことができる。	3.2	3.1	3.1	A	
		子どもたちは、読書活動にすすんで取り組んでいる。	3.3	2.7	3.1		A
	学ぶ意欲の向上	子どもたちは(教師は)授業で課題や問題にすすんで取り組んでいる。	3.4	3.0	3.3		A
学校は、体験や見学を取り入れ、地域の教育力を積極的に活用している。		3.5	3.1				
豊かな心の育成	温かい学級集団づくり	子どもたちは楽しく学校に通っている。	3.4	3.4	3.4	A	
		子どもたちは、異学年ともかかわり、協力して活動できる。	3.5	3.3	3.0	A	
	基本的な生活習慣の定着	子どもたちはあいさつができる。	3.4	3.1	2.4		A
		子どもたちはきまりや時間を守り、規則正しい生活をしている。	3.1	2.9	2.9	B	
		子どもたちは、そうじを黙って真剣に行うことができる。	3.0	2.5			
命を大切に する 子ども の 育成	道徳教育の充実	子どもたちは自分や友達、周りの人、生き物の命を大切にしている。	3.8	3.6	3.1	A	
		子どもたちは、交通事故、けが、不審者にあわないように気をつけて、生活できる。	3.7	3.5	3.3		
	危機回避・対応能力の向上	子どもたちは、火事や地震が起きたとき、どのようにしたらいいか知っている。	3.8	3.5	3.3		
		学校は、遊具・施設など安全整備が行き届いている。	3.2	3.3	2.7	B	
		ゲーム、SNSやメール等の使用について、家族で話し合って決めたルール(使い方や時間)がある。	3.3	3.3			
		家庭で話し合って決めたゲーム、SNSやメール等の使用のルール(使い方や時間)について、子どもは守っている。	3.3	2.7			

- 「確かな学力の育成」では、学ぶ意欲の向上について評価が上がっている。学校では、『問い』に向かって追究し続けていく学びの場づくりをテーマに教職員が研修を行ってきた。疑問を子どもたち同士で解決していこうとする意欲が成果として出始めていると考える。
- 業前活動の「おはなし村」では、図書ボランティアの方による読み聞かせを少ない回数で行った。図書ボランティアが来られない期間には、担任による読み聞かせを行ったり、司書教諭との連携を高めたりすることで、子どもたちの読書に対する興味・関心を高めていきたい。
- 新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの教育活動であるため、グループ活動や話し合い、実験や実習、歌唱指導などに制限がある。そのようななかでもICT機器の活用など、できることを考え、効果を上げていく工夫を今後も継続していくことが大切である。
- 感染防止の観点から、元気のよい挨拶が行いにくい面があったが、児童会の自主的な「あいさつ運動」をきっかけに学校内での挨拶の音が徐々に響くようになってきた。登下校でも、地域の方など誰にでも明るい挨拶ができるように家庭と連携して指導していきたい。
- 今年度も、ネットゲームでのトラブル等についていくつか話題が上がった。学校と家庭とが共通理解できるように、「すぎやまっ子の約束～ネットモラル編～」を活用したり、授業の中で情報モラル教育を充実させたりしていきたい。
- 行事が延期や中止を余儀なくされることが多かったが、「すぎやまスポーツフェスティバルmini」として、保護者に公開できたことはよかった。今後も、感染防止対策を徹底しながら、何ができるか検討をしていきたい。
- 自由記述の中に、令和3年度から小学校の部活動を実施しなくなったことで、体力の低下を心配する声が上がっている。基本的生活習慣を見直したり、体育的活動を充実させたりして、家庭とも連携しながら体力の向上を図っていきたい。
- 子どもの評価では、7項目において評価が上がっている。今年度も全般的に安定しており、前向きに自己評価できている。ただ、「お話しタイム」や「規則正しい生活」「そうじ」の項目の点数が低い。
- 保護者の評価では、昨年度と比べると評価が上がっている項目が多い。ただ、「読書」や「SNSの使い方やルール」の項目で点数が下がっている。家庭と学校がお互いに共通理解を図りながら、豊かな生活を送るうえで読書活動や正しく情報機器を活用することは大切であることを広めていきたい。
- 教職員の評価は、昨年度と比べると下がっている項目が多い。様々な制約のあるなかで、子ども同士の関わり合いの場面を設定することが難しくなっていることがひとつの要因として考えられる。これを機会に、一つ一つの活動を見直していきたい。
- 今年度は、タブレット端末を活用した授業展開やオンライン授業に重点をおいて、教職員の研修を行ってきた。今後、「確かな学力の育成」のため個に応じた学習の充実や、道徳教育等を通して「豊かな心の育成」の部分の項目の評価が上がるように努力をしていきたい。
- 保護者の自由記述には、温かい言葉を書いてくださる方が多い。「子どもをあたたく見守ってくれている」「子どもが楽しく学校に行けている」「熱心に指導してくれている」といった意見を多くいただいた。